



飯田町・鶴市町・檀紙町周辺の塚の密集地帯

高松平野の西部は塚の密集地帯で、今でもそこかして丘状の高まりを見ることができます。一見すると全て土の山に見えるので、違いは分かりづらいですが、その内部には実に多様な来歴を留めているのです。塚を築いた人のこと、塚を造り変えた人のこと、塚を守り伝えた人のこと、かつて生きて様々な人々の営みに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

むかしの高松

2021年3月
第33号

編集発行
高松市埋蔵文化財センター

高松市番町一丁目5番1号
tel 087-823-2714



<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kosodate/bunka/maizobunkazai/index.html>

出典：高松市教育委員会 2017『相作馬塚古墳Ⅱ』

高松市教育委員会 2019『飯田西 13・14・17・18・23号塚、紙漉 25号塚』



- 田園地帯に残る塚の正体 -

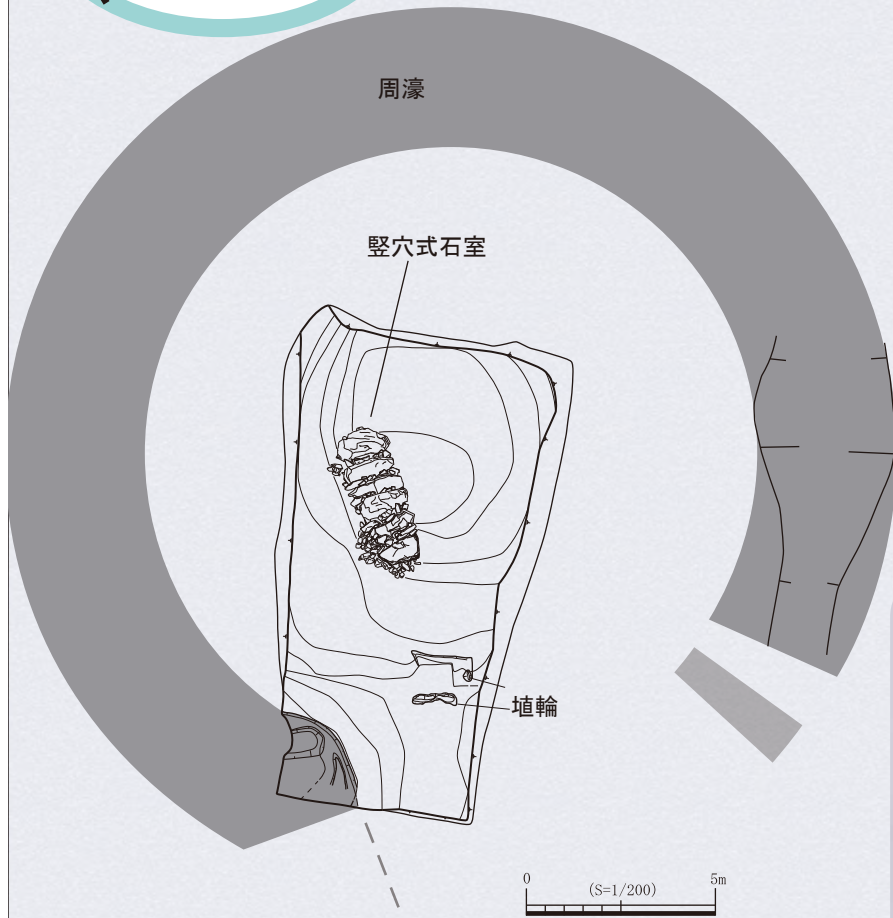
飯田西 14号塚



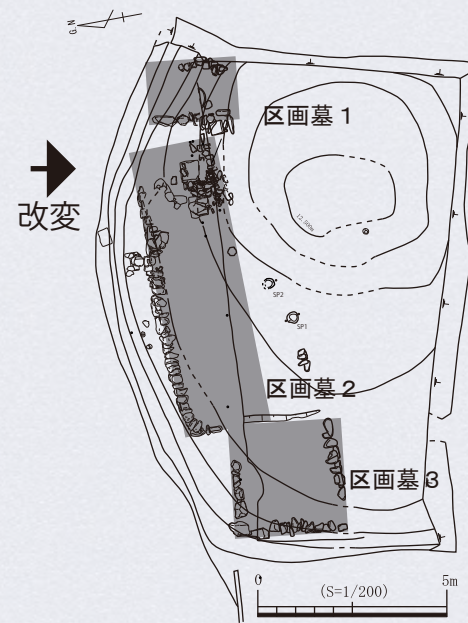
相作馬塚古墳

相作馬塚古墳

古墳を有力武士の一族墓に造り変えた「塚」



まず古墳時代中期（5世紀後半）に造り出し付きの円墳が築かれます。鉄製甲冑や刀剣類等の豊富な副葬品が発掘されています。その後、大きく時代は降って室町時代（14世紀前葉）に、古墳斜面を利用して有力武士の一族墓に造り変えられ、多数の石塔と造骨器が並びました。さらに、江戸時代には塚が拡張され、現代においても表紙の写真のように祠が祀られ、祭祀の対象となっていました。



飯田西14号塚

中世の有力武士の墓だった？「塚」



12～13世紀に、石組で囲った低い塚を造り、中央に遺体を埋葬して、その上部に凝灰岩の石塔を建てました。発掘調査を行った時には、石塔は横倒しになっていました。



紙漉25号塚

近世の祭祀・信仰の対象だった「塚」



江戸時代の終わり（19世紀）、壺の中に8枚の寛永通宝を埋納し、全ての銭の中心孔には鉄釘が差し込んでありました。その意図は不明ですが、祭祀的な行為と考えられます。

